

母谷たつりのり後援会便り



市政報告

謹啓

皆様、新年明けましておめでとうございます。21世紀6年目、平成18年の新春をご家族お揃いの上、ご健勝でお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

暖冬かと思われた矢先、耐震強度の構造計算書を偽造するという大変ショッキングな事件が発生し、年末には記録的な大寒波が日本全体を覆って各地で大雪による災害が相次いでおり政府は災害救助法の適用を含めた総合的な対策の検討を始めています。

国内ではこの他、昨年の衆議院議員総選挙で勝利した小泉首相に対し、改革の総仕上げとして期待されていることのひとつに社会保険庁の解体・再編が挙げられます。政府は既に厚生労働省がその業務を所管する閣議決定をしていますが、年金の給付と負担は生活していく上で国民の現実的な問題であり、本格的な高齢化社会に突入した今日、国民の信頼に堪え得る制度の確立を早急に実施してほしいものです。

また、年明け早々にはイスラエルのシャロン首相が体調不良を訴え緊急入院するというニュースが飛び込み医師団は脳内出血と診断しました。

現在も重篤な状況に変化は見られず、今後の政権維持は極めて困難であると予測され、中東情勢への影響が心配されています。

さて平成17年第7回広島市議会定例会は12月8日から20日までの13日間の予定で開催され予算案1件、条例案9件、その他の議案16件、報告3件が審議されました。

中でも第286号議案「指定都市高速道路の整備計画の変更に係る同意について」は自ら議案質疑に立ちその内容を質しました。



小泉改革の総仕上げには是非とも年金改革を!!



議案の内容は高速道路計画の見直しにより、総事業費4,600億円を3,780億円に下方修正するというもので聞こえは良いのですが財政難を理由にした行政当局による自助努力欠如の表れと言うほかありません。

もうひとつは高速3号線の太田川渡河部をトンネル工法(平成9年5月都市計画決定)から橋梁方式へ変更するという内容であります。

仮に滑走路を沖出し方式で整備し飛行場を活用するという詭弁を弄しても広島市が支出する総整備費の比較をすれば矛盾は歴然としています。

この決定は議会で長年議論してきた広島西飛行場の有効活用を広島市が事実上放棄したことを内外に発信するもので都市機能をまたひとつ失う結果となりました。平成の大合併を終え、近い将来の道州制移行に向けて**州都広島**を目指す本市では陸・海・空の交通網確保は絶対必須条件であります。

しかるにこうした決定は「今さえよければいい」、「自分さえよければいい」というあつてはならない安易な選択をしたと言うほかないのであり、結果として**「政策決定は100年の大計に基づいて」**という市政運営の基本を踏み外し、広島市政に大きな汚点を残すことになったと考えております。

これまでも広島空港の移転や広島大学の移転が広島市にとってなんら好影響を及ぼすことなくバブル期以後のさらなる地盤沈下を招く要因になったという教訓は生かされることなく三度過ちを繰り返した悔しさは砂を噛むような思いであります。

よく似通った都市規模として比較の対象とされる**札幌・仙台・福岡**の中で都市機能の充実によって大きな都市間格差が生じています。

広島市は今また飛行場さえも自ら手放す自殺行為を行ったことは将来の発展を著しく妨げる要因にこそなれ、魅力ある都市像に近づくことにはならないと思うのであります。

次世代においても支店経済の街広島としても**1,800mの滑走路温存**は欠かすことのできない重要な都市機能の筈でした。

私は将来世代に対し責任ある努力と行動と決定をきちんと示していくことが今を生きる我々に求められていると年頭に強く実感したところであります。

昨年は凶悪事件や災害が多発し、明るいニュースの少なかった年であります。そうした中で広島東洋カープの新井貴浩選手がセ・リーグのホームラン王に輝くという素晴らしいタイトルを獲得いたしました。

通算2,020本安打の記録を残し、昨年限りで引退した野村謙二郎選手に代って名実ともにカープの看板選手となり、これからも期待に応え活躍してくれることが広島市民の活力になると確信いたしております。

今年の日経平均株価は年頭初から高水準を維持し、大企業だけではなく我々が景気回復を肌で実感できる年になりそうです。

本年が皆様方にとって健やかでさらに幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。 謹白

広島市議会議員 母谷龍典

いい汗流そう!! いい笑顔つくろう!! 母谷たつりのり・ホットライン

ご意見
ご要望は

私が直接
ご返事
します

あなたの声を聞かせて下さい。ダイレクトメール mokkun@cc22.ne.jp へ

指定都市

高速道路整備計画変更路線図



広島市は橋梁方式にした場合、滑走路を冲出して広島西飛行場を活用すると言いますが、橋梁整備費140億円、滑走路の冲出し費用150億円に加えて漁業補償費、環境アセスメント費用等がさらに数十億円上乗せされ、300数十億円が広島市単独での資金負担となります。

一方、トンネル工法で整備すれば1,800mの滑走路が温存された上、480億円とされる整備費は国、県、市、高速道路公社でそれぞれ負担するため広島市の支出は4分の1の120億円です。

しかも整備後は有料道路としての料金収入が建設費の償還に当てられますが橋梁方式の場合には一般道として整備されるため1円の償還もできません。

凡 例	
整備計画の対象路線	
完成4車線整備区間	———
暫定2車線整備区間	- - - - -
整備ランプ	⤵ 出口 ⤴ 入口
整備を先送る箇所	
整備を先送る区間	———
整備を先送るランプ	⤵ 出口 ⤴ 入口
広島市単独の公共事業整備区間	———

隣接校・行政区域内校選択制がはじまります。

1. 「隣接校・行政区域内校選択制」とは

中学校に進学するときに住んでいる学区の中学校（所属学校）だけでなく、学区が隣り合わせになっている中学校や同じ行政区域内にある中学校の中からも選択することができる制度です。

2. 期待できることは

自宅から近い学校がありながら遠くの学校が指定されているなど、距離に関する不満を解消することができます。また、保護者や児童が教育内容や部活動などで行きたい学校を選ぶことによって、学校に対する関心が高まり、信頼される学校づくりを促進することが期待できます。

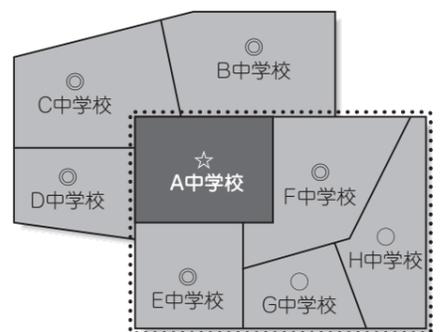
3. 対象となる人は

広島市内に住んでいる児童で、平成18年4月に広島市立中学校に入学する新1年生（現在小学校6年生）が対象です。（平成17年10月1日現在、保護者の住所が広島市にあることが条件です。）

4. 受け入れ人数は

学区内の児童は全員が所属学校へ入学できるようにした上で、各中学校の施設状況に合わせて学区外から40人を上限に受け入れ数を設定しています。学区外からの希望者が、受け入れ数より多い場合は、公開抽選になります。

なお、各中学校の学区に住んでいる児童が、学区外の中学校を希望して認められた場合、その人数も受け入れ数に加算しますので、学校によっては数字上40人を超える場合があります。



A中学校が所属学校の場合、隣接校のB～F中学校に加え、行政区域内校であるG・H中学校からも選択できます。

凡 例	
———	通学区
- - - - -	行政区界
☆	所属学校
◎	隣接校
○	行政区域内校

母谷たつりのり 広島市佐伯区美鈴が丘西五丁目17番12号
事務所 E-mail mokkun@cc22.ne.jp

☎929-9002
FAX 929-9002

市議会 ☎504-2443
FAX 244-1419

広島市議会 ホームページ <http://www.city.hiroshima.jp/gikai/index.html>

母谷たつりのり ホームページ <http://www.motani.jp>